

大阪府下北河内6市における3歳児検尿について

小林立美, 小林陽之助

関西医科大学小児科学教室

〈研究目的〉

三歳時検診における検尿実施及び異常尿の分析。

〈方法と対象〉

大阪府医師会第3ブロック保健所(枚方市, 寝屋川市, 門真市, 四条畷市, 守口市)に実施協力を依頼し, 3歳児検診を行う際同時に検尿を行った。研究実施期間は昭和57年7月1日から59年6月30日までの2年間とし, 尿所見異常者については昭和60年10月までの結果について集計し, まとめた。

保健所では保護者に早朝尿を持参させ, 尿潜血反応, 蛋白, 糖, PHの検査(ヘマコンビステックス使用)を行い異常尿陽性児を判別した。これを一次検査とし陽性児については大阪小児腎研究会に加入している19病院を紹介し, 更に二次検査を行った。二次検査では早朝尿来院時尿についてスルホサリチル酸法, 煮沸法による蛋白定性試験及び尿沈渣検査を行った。蛋白定性試験(±)以上, 何らかの異常が尿沈渣にて見られた者については要観察とし血液学的検査, レ線検査, 尿培養等を行い要観察と要治療群とに分けた。

〈結果及び考察〉

検尿については表Ⅰに示した様に, 三歳児検診受診者5787名中4586名(79.2%)に実施できた。尿潜血陽性者数は70名(1.53%)で, その内男児は18名(25.7%), 女児は52名(74.8%)であった。尿蛋白異常は(±)以上を陽性としたためか397名(8.66%)と高率に陽性であったが,

その内361名(7.87%)が(±)陽性者であった。男女比については男児212名(53.4%)女児185名(46.4%)であった。

以上の一次検尿での結果をまとめると, 異常尿は455名(9.92%)の児に見られ, 血尿, 蛋白尿ともに陽性者は12名(2.64%)であった。455名の内188名(41.32%)については上記の二次検査協力病院にこの精査を希望したが, 他の者については近医またはかかりつけの医院での精査を希望したため追跡結果は得られていない。また, 病院紹介した188名についても実際受診したのは175名であり, 二次検査の結果は表Ⅱに示した通りである。二次検尿にて尿異常を示した者は53名で, 二次検尿受診者の30.2%であり, この内三次検尿を受けた者は45名であった。約1年間の経過観察の結果, この45名は血尿群29名, 蛋白尿群2名, 腎炎の疑3名, 腎炎4名, 尿路感染症と思われるもの7名であった。なお表Ⅱの右側には同率で455名を分類してみた。

以上の結果をまとめると

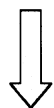
- 1) 三歳時検診における保健所での検尿は74.2%と高率に実施する事ができた。
- 2) 三歳児にて発見される尿路系疾患では, 尿路感染症と思われるものが高頻度に発見された。尚今回の三歳児検尿は大阪府医師会勤務医師部会の協力にて大阪小児腎研究会が中心となり行なった。

表Ⅰ 三歳児検診における検尿結果
(保健所での)

三歳児検診受診者数 5787 名	
うち検尿者数 4586 名 (79.2%)	
血 尿	蛋 白 尿
－ 4516 (98.50%)	－ 4189 (91.30%)
＋ 60 (1.31%)	± 361 (7.87%)
＋＋ 7 (0.15%)	＋ 31 (0.68%)
＋＋＋ 3 (0.07%)	＋＋ 3 (0.07%)
	＋＋＋ 2 (0.04%)
＋～＋＋ 70 (1.53%)	±～＋＋ 397 (8.66%)
男児 18 (25.7%)	男児 212 (53.4%)
女児 52 (74.8%)	女児 185 (46.6%)
異常尿児 455 (9.92%)	
血尿、蛋白尿ともに陽性 12 (2.64%)	
病院紹介 188 (41.32%)	

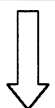
表Ⅱ 三歳児検診での1次～3次検尿結果

検 診 数	推 測 値
1次検尿児数 4586	
異常尿児 455 (9.92%)	
2次検尿児数 175	455 (9.92%)
異常尿児 53 (30.2%)	138 (3.01%)
3次検尿児数 45	138 (3.01%)
暫定診断	
腎炎の疑 3	9
腎炎 4 } 7	12 } 21 (0.46%)
膀胱炎 7	21 (0.46%)
血尿群 29	89 (1.94%)
蛋白尿群 2	6 (0.13%)
()内の数値はそれぞれの段階での 受診数に対しての %	()内の数値は4586 名 に対しての %



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

三歳時検診における検尿実施及び異常尿の分析。